不意な話しかけから/周囲の視線から

気配 で はなれるには？

高さを変えるとモードも「気配」も変わる(→p.2)

「気配」を部分的に遮り、活気の中で没入を深める(→p.3)

視線や存在の「気配」を和らげながら、
お互いの状況を感じ合う(→p.4~5)

終われない雑談から/気の散る情報から

向き で はなれるには？

「通路向き」雑談は気軽にはじまる、終われる(→p.6)

「通路向き」の気軽な雑談から、
「相手向き」の偶発的な協働へ(→p.7)

姿勢も議論も、自然と「前向き」に(→p.8)

プラスが考える
「適切にはなれる」設計を構成する
3つのカテゴリと検証まとめ

In オルガテック東京2026

対話の緊張から

余白 で はなれるには？

木のぬくもりで、心を休める「余白」を (→p.9)

身体を動かせる「余白」が会話を弾ませる(→p.10)

視線を逃す「余白」が本音を引き出す(→p.11)

不意な話しかけから、適切に「はなれる」には？①

高さを変えるとモードも「気配」も変わる

展示の様子

検証

検証により、隣り合う昇降デスクで「立つ」「座る」の姿勢差（天板高300mm程度の差）があると、**話しかける際に自然と相手に合わせて立つ・座るといったワンアクションが介在し、むやみな話しかけによる中断を抑制できる**ことがわかりました。物理的な高低差が心理的な境界となり、互いの集中を尊重したつながり方を促します。

▶詳しい検証結果はこちら

展示デスク
Work Mode

展示チェア
HÅG Capisco

表紙へ

周囲の視線から、適切に「はなれる」には？ ①

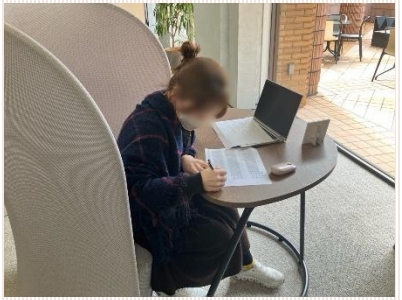
「気配」を部分的に遮り、活気の中で没入を深める

展示の様子

検証

調査（※）により、構想段階の業務では「作業内容への視線」、正確さを求められる作業では「視界に入る他者」が、パフォーマンスの阻害要因として上位に挙がりました。**業務特性に応じて背後や前面など必要な方向のみ遮ることで、孤立を避け、周囲の活気をほどよい刺激に変えられます。**

※プラス調べ（2026年3月、n=500）



▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
Work Harbor

表紙へ

不意な話しかけから、適切に「はなれる」には？②

視線や存在の「気配」を和らげながら、お互いの状況を感じ合う

展示の様子

検証

7割以上のワーカーが、日常的に周囲からの話しかけで作業を中断され、本来の倍以上の時間を要している実態が調査（※）で判明しました。**顔の周辺や手元を部分的に遮ることで、作業領域を守りつつ、「集中している」「今は話せる」サインが緩やかに伝わります。**遮りすぎないことが、適切なタイミングでの連携へとつながっていきます。

※プラス調べ（2026年3月、n=500）

▶詳しい検証結果はこちら

展示デスク
FA-85（HUB）

展示チェア
mari

表紙へ

周囲の視線から、適切に「はなれる」には？②

視線や存在の「気配」を和らげながら、お互いの状況を感じ合う

展示の様子

検証

複数人用の執務テーブルで検証を行ったところ、視線のぶつかりやすい正面よりも、隣や対角の方が「見られているかもしれない」感覚が強まる傾向がありました。**自分の視界の外からの「視線の予感」を緩和することで、お互いの没入を尊重しながら、状況や活動など様子を感じ合うことができます。**

▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
ALIS

展示チェア
mari

表紙へ

終われない雑談から、適切に「はなれる」には？①

「通路向き」雑談は気軽にはじまる、終われる

展示の様子

検証

観察調査により、**通路沿いは偶発的な出会いが多いことに加え、気兼ねなくいつでも立ち去れることから、業務中の雑談がうまれやすい**ことがわかりました。通路沿いに座席や立ち話できる場を設けることで、長引く不安なく、気軽な雑談がうまれやすくなります。

▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
WORK FRAM

終われない雑談から、適切に「はなれる」には？②

「通路向き」の気軽な雑談から、「相手向き」の偶発的な協働へ

展示の様子

検証

通路沿いに設置した「5 TSUBO CAFE」では、**短時間の雑談はすぐ立ち去りやすい通路向き、仕事の相談は相手向きと、意識の方向と共に身体の向きを変える**傾向が見られました。この自然なモード切替が、雑談から相談への移行や、途中参加・途中離脱を許容する偶発的な協働を容易にします。

▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
5 TSUBO CAFE

表紙へ

気の散る情報から、適切に「はなれる」には？

姿勢も議論も、自然と「前向き」に

展示の様子

検証

打合せの映像検証で、発言者に対しての視線を送る・うなずくといった参加者のリアクションの有無は、席配置に左右されることが明らかになりました。全員が同じモニターの方向を向きつつ、**お互いの表情が自然と視野に入る半円型やシアター型の「前向きミーティング」のレイアウトが、議論の熱量を上げるために有効**です。

▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
WORK FRAN

展示アイテム
Work Piloti

展示デスク
Work Mode

展示チェア
HÅG Capisco

表紙へ

対話の緊張から、適切に「はなれる」には？ ①

木のぬくもりで、心を休める「余白」を

展示の様子

検証

テーブルでの対話につき映像検証を行ったところ、手や腕が常に机上に触れ、思考する際には視線を机上に落とす傾向がありました。**天然木の質感や木目の視覚的なゆらぎは緊張を和らげる緩衝材として機能**し、構えることなく自然体で向き合う時間をうみだします。

▶詳しい検証結果はこちら

展示テーブル
Vicenda

展示チェア
WORK FRAN

表紙へ

対話の緊張から、適切に「はなれる」には？②

身体を動かせる「余白」が会話を弾ませる

展示の様子

検証

ソファレイアウトでの対話時には、前傾になって相手の話に集中する、後傾になって考える、のけぞって笑うといった重心移動を伴う大きな身体の動きが見られました。**相手との距離感を調整しながら対話のモードを自ら切り替えることで、緊張を解き、自然な対話が広がります。**

▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
Dolcevita

対話の緊張から、適切に「はなれる」には？③

視線を逃す「余白」が本音を引き出す

展示の様子

検証

対話の映像検証により、壁に囲まれた密室では意識が相手に集中しすぎる一方、**透過性のあるカーテン越しに周囲を感じる空間は、視線の逃げ場を生むことがわかりました。**
思考の整理や言葉を探すための間が、より深く本音で向き合う対話へと導きます。

▶詳しい検証結果はこちら

展示アイテム
Work Piloti

展示チェア
WORK FRAN

表紙へ